

新年おめでとうございます。

今年は何事選挙の年であり、すでに沼田知事は、5選出馬を表明されていますが、私たちは、沼田知事の5選は、県政の停滞、腐敗を招くという立場から強く反対します。

私たちが反対するのは沼田さんだから反対するのではなく、誰であろうと多選が民主主義を破壊すると考えるから反対するのです。アメリカの大統領を初めとして多くの国で権力者の3選（多選）が禁止されているのは、権力者が長年その地位を占めると、どんなに優れた人であっても、権力が私物化され、腐敗する危険があるからです。

沼田県政を振り返ってみますと、3期までは比較的バランスの取れた公平な人事と積極的な施策がとられたと高く評価するものです。しかし4期を迎えてから停滞と腐敗の兆候がいたるところに現れてきました。多選の弊害である、たとえ本人が腐敗しなくても、側近が固定化し、腐敗するという現象がすでに出てきています。その結果、情実人事とことなかれ主義が県庁に横行し、県職員の多数は仕事にやる気を失っています。職員と知事の間には側近という厚い壁ができてしまい、我々職員の声は知事に伝わらず、我々一般の県職員の間では知事は裸の王様と呼ばれています。

現在全国各地で公費の乱用が指摘され批判を浴びています。

しかし千葉県ではそのようなことは報道されていません。では千葉県ではそのような公費の乱用は行われていないのでしょうか。これは沼田知事自身が一番よく知っているのではないのでしょうか。今幹部職員の間では『将来の返還に備えて貯金をし

ている』というブラックジョークがささやかれています。

公費の乱用、使い込みの手口は基本的には各県と同じです。

各課の庶務主任が課長補佐と庶務係長の指示を受け、旅費、時間外、物件購入のカラ伝票を切り、裏金を作ります。

裏金の第1の使いみちは課長本人の自己接待です。課長個人のための完全な飲み食いです。もちろんタクシーの送り迎え付きです。課により課長により回数や程度は異なりますが、どの課でも行われている悪しき慣習です。

第2の使いみちは議会工作費です。多選を有利に運ぶため議会のまる抱えが知事周辺によって進められ、オール与党化が進んでいることもあり、有力議員を接待したり、贈り物に使われます。各課で直接行う場合と各部の主管課でプールして行う場合もあります。これだけ接待攻勢を受けている議員に公費の乱用を問題にすることができないのは火を見るより明らかです。

第3の使いみちは人事工作費です。情実人事が広く行われていることから、部長や知事側近の有力幹部、場合によっては知事自身を招いての接待が行われています。

知事自身が部課長の公金による接待、贈り物を受けていてどうして職員の監督ができるでしょう。

第1から第3までの使いみちはいわゆる『官官接待』ではなく県庁幹部職員による県庁幹部職員のための接待であり、県職員の間では『県県接待』と揶揄されています。実際に職員がいない出張命令が作られ支出されます。私たち一般の県職員の旅費、時間外手当が不当に流用され、幹部職員の飲み食いに使われているのです。『県県接待』の実態は県庁舎前で夜、客待ちをしているタクシーの運転者が一番よく知っています

、何しろ1万かかろうが、2万かかろうが飲んだらタクシーチケットで自宅まで送ってもらうのは県の課長の常識になっているのですから。

第4の使いみちは今まであげた不正な使いみちとは異なり、現在の硬直化した予算、財政システムでは支出の困難な事務経費に使われるものです。計上した予算は1円残らず使い切らねばならないという非現実的なシステムを改善し、余った金は返す、必要な金は堂々と出すというあたり前のことができるようになれば、この使いみちはなくなります。ここが重要なポイントです。なぜならば第4の使いみちを隠れみのにして、あるいはこれを口実に裏金を作られ、その結果として、第1から第3のまったく不当な使い込みが行われているからです。硬直化した予算、財政システムが改善されれば、裏金を作る口実がなくなり、不正な使い込みがしにくくなります。逆に言えば現在の建前にこだわったシステムが存続するかぎり、裏金は作られ、使い込みは後を絶たないでしょう。この点をマスコミはもっと掘り下げて報道すべきです。宮城県で指摘された公費の乱用のなかに職員の夜食の公費支給がありました。しかし議会等で残業しても予算の都合で時間外手当が支給されない職員の権利はどうなるのでしょうか。（千葉県でもまったく同様です）サービス残業の実態をまったく報じないマスコミは職員の支持、理解、協力を得ることはできないでしょう。以上のべた公費の乱用は程度の差はあれ、全国の自治体で行われていることと思いますが、千葉県においては知事の大選、議会政党のオール与党化がこの傾向に拍車をかけ、腐敗がまさに鼻を突いています。おそらく秋田、福岡の例からいっても50億を楽に越える公費

が乱用され、幹部職員の飲み食いに消えていることでしょう。これはもう立派な犯罪です。沼田さんは知事選に出馬すれば、おそらく当選するでしょう。しかし任期中にこの問題が表面化し、秋田県知事のように辞任に追い込まれる可能性は大きいと思います。あなたにできることは勇気を持って出馬を辞退することです。そして残された任期中に公費の乱用を生み出す非現実的な予算、財政システムにメスを入れることです。それがあなた自身の名誉を守ることであり、あなたを知事に選出した500万県民の付託に答える道です。

沼田さん。知事の椅子という公職を私物化することはやめて下さい。4期16年あれば、あなたの所信と志を世に問うことは十分できたはずですが。4期でできないものは5期やってもできないでしょう。若い人に道を譲ることはそんなにむづかしいことでしょうか。私たち県職員は知事が変わることを、県政の改革を強く待ち望んでいます。あなたの5選を推している人々は、自分たちの保身と権益を守るためにあなたを利用しようとしているだけです。都合が悪くなれば、あなたは秋田の知事のように簡単に切り捨てられるでしょう。

私たちは県政の主人公は県民であると考えます。そのためには県行政にかかわる一切の情報は県民に開かれているべきだと考えます。しかし沼田執行部は都合の悪い情報は県民に隠そうと懸命です。2年前に口答で情報公開に関してある御達しが職員に出されました。＜今後情報公開の要求が出てくる可能性があるので、具合の悪い事項は公文書には記載しないで、例えば会議終了後の宴席の参加者名や人員は口答で上司に説明するとか、別紙に記載して、決裁後破り捨てる等の処置を採るように＞

という悪質なしろものです。

私たちは知事の5選に反対の立場からこのメッセージをマスコミと各政党、労働組合、市民オンブズマン連絡会議に送ります。そして今後は県民が正しく判断できるよう沼田執行部がひた隠しにしてきた情報を県民に明らかにして参ります。県職員すべてが腐敗しているわけではありません。私たちは少数ですが、まともな仕事がしたいと考えているまともな職員は私たちのまわりにたくさんいます。しかし上司に命じられれば、ニセの伝票でも書かなければならないのが職員の立場です。しかしもう泣き寝入りはしません。口をつぐんで貝になることは腐敗に手を貸すことになります。これからはどんどん発言してゆきます。それが私たちの働く職場を少しでも良くする道だと思っております。

1997年1月6日

沼田知事の5選に反対し、情報公開を進める県職員の会